

感染症に気をつけよう!

2020年【9月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症*	 発生	 横ばい	6月から報告が増えています。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症**	 発生	 横ばい	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.8号】
梅毒*	 発生	 横ばい	報告数が比較的多い状態が、続いています。

参考ホームページ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所
横浜市感染症情報センター



今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス 感染症

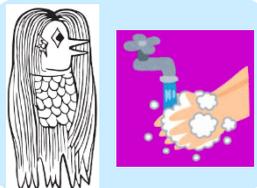
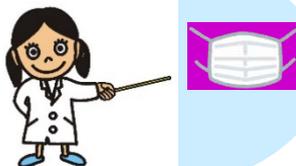
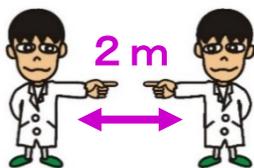
- 一般的には、ウイルスを含む飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)を口や鼻などから吸い込む飛沫感染、ウイルスが付いた手で口、鼻や目の粘膜に触れる接触感染で感染します。
- このため、予防には次の3つの基本的な対策*が大切です。



- ①● 飛沫を吸い込まないように、**人との距離**を、できるだけ2m(最低1m)空けましょう!

- ②● 会話をする時は**マスク**を着けましょう!(ただし、熱中症に注意して、屋外で人と十分な距離が保てる場合には、マスクをはずすようにしてください。)

- ③● 手指のウイルスを、水と石けんで30秒程度かけて、**しっかり洗い流**しましょう!



厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】

